

委託事業実施内容報告書
平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 保見ヶ丘国際交流センター

1. 事業名称

「豊田市保見団地」地域連携による日本語学習推進事業―「やさしく、たのしく、みんなで日本語、いきいき、わくわくHOMIのまち」

2. 事業の目的

日本人住民・外国人住民ともに参加できるイベント的な日本語学習機会を提供することによって、継続的な日本語学習活動と地域活動への参加を促すことを目的とする。

3. 事業内容の概要

保見団地の各団体が連携して、外国人集住地域の持つ課題（高齢化、防災、多文化交流、地域自治など）を採りあげ協働イベントなどに取り組む。その中で日本語学習のニーズを掘り起し、より多くの学習機会を創出し、外国人はもちろん地域日本人の日本語教室への参加を促進する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	課題	検討内容
1	平成24年 7月22日 13:30 -15:00	1.5	公団141棟 第2集会所	楓原和子 古橋三吉 澤田亜紀 加藤貴美子 衣川隆生 松本一子 土井佳彦 米勢治子	事業計画の 検討	事業計画にある6つの取組(実行委員会の設置、高齢化、防災、多文化交流、地域自治、事業評価と成果報告会の開催)について説明し、現状を参加者がどう捉えているか、自治区との連携について意見交換した。
2	平成24年 10月7日 13:30 -15:00	1.5	公団141棟 第2集会所	楓原和子 古橋三吉 衣川隆生 伊東浄江 松本一子 米勢治子	事業計画の 中間検討と 評価	取組2, 3, 4について実施状況と進捗状況を報告し、事業評価の方法について意見交換し、日本語教育が推進されたことが重要になることを確認した。
3	平成25年 3月10日 13:30 -15:00	1.5	公団141棟 第2集会所	楓原和子 伊東浄江 松本一子 米勢治子	事業の評価	シンポジウムアンケート結果と指導書作成の報告をし、事業全体を振り返って、意見交換した。

【写真】



第1回運営委員会(7月22日)



第3回運営委員会(3月10日)

5. 取組についての報告

○取組1:実行委員会の設置と開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

保見団地の多文化共生推進協議会の設置準備

(2) 取組内容

実行委員を選定し、取組2-6推進のために情報を収集し、取組を記録した。
また、取組で実施するイベントに参加した地域住民に日本語教室・HOMIGOを紹介するためにパンフレットを作成・配布した。

(3) 対象者

実行委員

(4) 参加者の募集方法

メールと電話

(5) 参加者の総数 15人(異なり) / 85人(全12回の延べ人数)

(出身・国籍別内訳: ブラジル3人、日本12人)

(6) 開催時間数(回数) 27.5時間(全12回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	7月22日 13:30 -16:45	3	9	事業全体について 取組2「高齢化」について	運営委員会との合同会議で、事業説明があり、自己紹介と現状認識を述べた。合同会議後に事業の役割分担を確認し、取組2「高齢化」の勉強会の内容と講師についてコーディネーターからの提案を検討した。
2	8月5日 15:15 -16:45	1.5	9	取組2「高齢化」について	会議に先立って、取組2「高齢化」をテーマとした勉強会を開催し、それを基に高齢化社会に対応するにはどのようなことが大切かを考え、イベントの内容について話しあった。

3	8月12日 10:00 -13:30	3.5	10	取組2「高齢化」について 取組4「多文化交流」について	取組2「高齢化」をテーマとしたイベントの進め方について話し合った。また、取組4「多文化交流」勉強会の内容・講師および役割分担について話し合った。
4	9月23日 13:30 -15:00	1.5	12	取組3「防災」について 取組4「多文化交流」について	前半は取組み4「多文化交流」の勉強会を開催し、講師から取組内容・方法・状況について知見を得た。後半はイベントの内容と地域連携の方法、公団への許可申請について話し合った。
5	10月7日 15:15 -16:45	1.5	8	事業成果報告会（シンポジウム）について	実行委員会に先立って開催された運営委員会にも参加し、事業の進捗状況を報告し、シンポジウム案を検討した。それを基にはシンポジウム案の実施に向けた方策を話し合った。
6	10月20日 15:15 -16:45	1.5	9	取組3「防災」について	会議に先立って取組3「防災」の勉強会を開催し、それを基にどのようなイベントが開催できるかについて話し合った。
7	12月29日 10:00 -11:30	1.5	4	取組6「事業成果報告会（シンポジウム）」について	シンポジウムの共催・後援名義の進め方、オープニングの内容について話し合い、役割分担を確認した。
8	1月13日 15:15 -16:45	1.5	9	取組6「成果報告会（シンポジウム）」について	会議に先立って取組6「事業評価」の勉強会を開催し、取組1～5の実施状況を検証した。それを踏まえて、シンポジウムの進め方を話し合った。
9	2月3日 13:30 -16:30	3	6	取組6「事業成果報告会（シンポジウム）」について	次週に迫ったシンポジウムについて、進め方、役割分担など、最終的な確認、話し合いを行った。
10	2月19日 17:30 -20:30	3	6	取組6「指導書作成」について	取組6「指導書作成」の編集方針を話しあい、執筆者について確認し、印刷製本業者の検討を行なった。
11	2月27日 18:00 -21:00	3	5	取組6「指導書作成」について	「指導書」原稿の原案を持ち寄り、資料編の内容と全体レイアウトについて話し合った。
12	3月10日 13:30 -16:45	3	6	取組6「指導書作成」について 事業完了報告書作成について	取組6「指導書作成」の原稿の最終的な確認を行った。 事業完了報告書の執筆分担を話し合った。

(8) 特徴的な活動風景

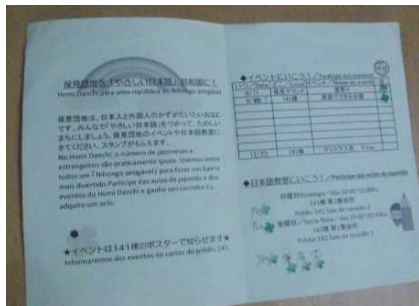


第4回実行委員会(9月23日)



第8回実行委員会(1月13日)

取組1では、日本語教室への参加や取組2～5のイベント参加を促すために「やさしい日本語パスポート」を作成配布した。また、日本語教室 HOMIGO を周知し学習者・ボランティアを募集するためのパンフレットを作成配付した。



「やさしい日本語パスポート」



HOMIGO パンフレット(日本語・ポルトガル語)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

取組1では、取組2～6と連動した勉強会において取り組みテーマについて把握し具体的に協議する場としての実行委員会を開催し、事業を推進してきた。実行委員のうち団地役員やブラジル人協会関係者の参加が極めて少ないなか、取組2の高齢化イベントや取組6のシンポジウム開催に協力を仰ぐことができた。そのわずかなかわりから次年度の団地自治会主催の事業への協力要請なども生れている。

取組1として、作成配布した「やさしい日本語パスポート」は配布機会を逸したことやその後の運用にも問題があり、また、HOMIGOのパンフレットは「ふれあい祭り」において団地内の多くの人々に周知できたが、どちらも日本語教室参加への効果はほとんど認められなかった。

取組1の目標に掲げた「保見団地の多文化共生推進協議会の設置準備」については、いまだ入口に立ったままの状況である。

(10) 改善点について

団地内に住む地域住民を代表する人々との連携は非常に厳しい状況にある。実施体制においては、きめ細かな対応が十分にはできなかったが、時間をかけて日常的な接触と対話を重ねる中で信頼関係を築いていきたい。

○取組2:高齡化にかかわる取組

(1) 体制整備に向けた取組の目標

高齡化をテーマとした活動をもとに住民の交流を促進させ、日本語教室への参加意識を育む

(2) 取組内容

保見団地における高齡化の現状をもとに教育活動を計画する。地域イベントや教室活動を通して、保見団地内の高齡化問題について日本人と外国人が共有する。

(3) 対象者

団地内に住む日本人、外国人及び実行委員

(4) 参加者の募集方法

勉強会はメールと電話。イベントはチラシとメール

(5) 参加者の総数 51人

(出身・国籍別内訳:ブラジル6人、中国1人、ベトナム2人、日本42人)

(6) 開催時間数(回数) 3時間(全2回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	8月5日 13:30-15:00	1.5	20	「高齡化」の状況を知る(勉強会の開催)	講師に愛知県高齡者生協保見ヶ丘ケアセンターの山寄亜土氏を迎え、団地内で行った介護教室の受講状況、ケアセンターの訪問介護の利用状況などについて話を聞き、保見団地内の高齡化の現状について知見を深めた。
2	9月9日 10:00-11:30	1.5	31	家庭でできる介護(イベントの開催)	公団六区集会所で講習会を開催した。最初にウォーミングアップを兼ねて健康チェッククイズを4択で行い、その後、介護保険についての解説を聞いた。後半は、家庭でできる介護について体験を通して学習した。

イベントのちらし

げんき く
みんな元気に暮らす

保見団地にはお年よりもたくさんいます。今、若い人もこれから年をとります。ご近所の助け合いが大切です。

みんなで楽しく、健康体操をしたり介護体験をしたりしましょう。

みんな
元気になる
体操!

みんなで
家庭で
できる介護

楽しく
おしゃべり!

来てね

日時: 9月9日(日) 午前10時~12時

場所: 公団107棟 1F 六区自治区集会所 参加費: 無料

主催: 保見ヶ丘国際交流センター 連絡先: 090-2037-5228 (後援)

講師: 愛知県高齢者生協 にこにこクラブ

文化庁委託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業(地域日本語教育実践プログラム)」
「やさしく、たのしく、みんなで日本語、いそいそ、わくわくHOMIのまち」

Todos Vivendo Saudável

No Homi-Danchi também vivem vários idosos. Os jovens de agora também envelhecerão. A ajuda entre os vizinhos é importante. Praticaremos exercícios e experimentaremos cuidar de idosos venha se divertir todos

Exercícios
para ficar
saudável

Cuidados que
podem ser
feitos
em casa

Conversas
divertidas

Venha

Horário: 9:00(Dom) Das 10:00 as 12:00

Local: Salão de reunião do Prédio 107 KODAN 1ª Andar

Custo de participação: Grátis

Professor: Associação cooperativa de idosos de Aichi Clube niko-niko

Organizadores: Homigaoka Kokusai Kouryuu Center

Contatos: 09020375228 (Kaeedabara) 09083391240 (Pralo)

Empreendimento do Comitê de Ministério da Cultura "Programa de educação da língua japonesa para estrangeiros que vivem na comunidade"

Yasashiku, Tanoshiku, Minna de Nihongo, Ito Ito, Waku Waku HOMI no machi

(8) 特徴的な活動風景 イベント「家庭でできる介護」(9月9日)

「家庭でできる介護」をテーマに、地域の人に広く聞いてもらうために、六区自治会の集会所を利用した。参加者同士が親睦を深められるような内容にし、寝たきりの人を起す方法などの介護体験を実施した。当初の団地住民グループによる健康体操からラジオ体操に切り替えて実施した。



「あなたの健康度・介護度は？」4択クイズ



「知っていますか？」介護保険制度



家庭でできる介護を体験



最後はみんなでラジオ体操

(9) 取組の目標の達成状況・成果

70年代につくられたニュータウンと呼ばれる団地の高齢化は周知の事実であるが、外国人住民にも広がり深刻な状況が勉強会で明らかになった。この勉強会とその後の話しあいに参加した団地役員からは積極的なイベント内容への提案・協力があり企画に盛り込まれた。

目標であった「高齢化をテーマとした活動をもとに住民の交流を促進させ、日本語教室への参加意識を育む」については、イベント参加者に地域住民の参加が少なかったことから、達成が不十分であると言わざるを得ない。しかしながら、日本語教室から参加した学習者はやさしい日本語による日常生活の振り返りや体験型の内容を楽しみ、ボランティアは介護制度を知ることによって評価が高かった。また、高齢化を意識した教室活動の実施やイベントチラシを見て介護に興味を示した学習者の存在から、このテーマが今後につながることを認識した。

(10) 改善点について

イベント実施に当たり連絡が徹底せず、当日になって内容を変更せざるを得ない事態が生じた。実施体制における役割分担の明確化が課題となった。

○取組3:防災にかかわる取組

(1) 体制整備に向けた取組の目標

防災をテーマとした活動をもとに住民の交流を促進させ、日本語教室への参加意識を育む

(2) 取組内容

防災をテーマとした教室活動を実施し、地域住民の防災意識の向上をはかる。同時に地域住民、外国人の参加を促し、今後の日本語教室への参加につなげる。

(3) 対象者

団地内に住む日本人、外国人及び実行委員

(4) 参加者の募集方法

勉強会は、参加依頼文書、メール、電話。イベントは、ふれあい祭りの機会を利用。

(5) 参加者の総数 31人

(出身・国籍別内訳：ブラジル人6人、中国人3人、日本人22人)

(6) 開催時間数(回数) 4.5時間(全2回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	10月20日 13:30 -15:00	1.5	16	過去の大震災から学ぶ(勉強会の開催)	NPO法人多文化共生センター大阪の田村太郎氏を講師に外国人との共生を考える防災について講演会を開催し、保見の防災力を高めるためにどのようなことが大切か話し合った。
2	11月18日 9:30 -12:30	3	15	防災意識を高めるための防災クイズと防災マップ(イベントの開催)	日本語教室HOMIGOで防災クイズと防災マップの作成準備を進め、公団自治区主催のふれあい祭りの機会を利用して、実施した。

(8) 特徴的な活動風景



勉強会「過去の大震災から学ぶ」
(10月20日)



イベント「防災クイズ&マップ」
(11月18日)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

勉強会への団地役員らの参加を促すために、外国人を対象とした防災では全国的なキーパーソンである田村太郎氏を講師に迎えた結果、多くの自治会関係者が参加し、避難所での自治会の役割の重要性を認識してもらえた。聴講者には、自治会役員のほか、敬老会、地域の防災グループ、消防署、県警の国際課に来てもらうことを想定して依頼状を配布したが、参加者の広がりにはつながらなかった。

勉強会は盛会であったが、避難所生活の問題を地域イベントにつなげることは時間的に難しかった。

防災をテーマとした教室活動を2つの日本語教室で実施し、防災への関心が高まった。また、センター主催の教室では保見を皆で歩いて消火栓の場所などを調べ防災マップを作ることとし、地域のふれあい祭りで防災をテーマとしたパネル活動の企画・実施につなげる中でより身近な問題として実感することができた。

上記の活動によって地域住民の日本語教室への参加につながることはなかった。

(10) 改善点について

勉強会の盛り上げりを地域と共に防災イベントにつなげ、さらに、日常的な防災システム構築を協働できるような体制整備が地域の課題である。取組としての実施体制においては、勉強会、イベントの流れをつくる上で時期的な配慮、地域住民との話し合いの機会を十分とるなどの年次計画が必要である。

自治会主催の防災イベントでは、外国人住民の参加を考慮した実施体制がとられていなかったことから、企画段階からの協働を申し入れるなどが今後の課題である。

○取組4: 多文化交流にかかわる取組

(1) 体制整備に向けた取組の目標

異なる文化背景を持つ住民の交流を促進させ、日本語教室への参加意識を育む

(2) 取組内容

地域の課題である多文化交流に向けて、地区の日本語教室、自治区、ブラジル人協会などが協働してイベント（朝市、フリーマーケット）を開催することにより、地域住民、外国人の参加を促し、今後の日本語教室への参加につなげる。

(3) 対象者

団地内に住む日本人、外国人及び実行委員

(4) 参加者の募集方法

勉強会は、メール、電話。イベントは、ふれあい祭りの機会を利用。

(5) 参加者の総数 多数（勉強会参加者：22人）

（勉強会参加者の出身・国籍別内訳：ブラジル3人、中国0人、日本19人）

(6) 開催時間数（回数）4.5時間（全2回）

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	9月23日 13:30-15:00	1.5	22	保見地区における 交流会開催事例の 報告（勉強会の開催）	保見でこれまでやってきた交流事業に関する苦労話等を、関係者に話してもらった。「ほみにおいでん祭り」、東保見、西保見小学校PTA関係者の多文化交流の取組、朝市の出店者などの事例紹介により、多文化交流のヒントを学んだ。

2	11月18日 9:30 -12:30	3	多数	フリーマーケット の開催とパンフレ ットの配布	日本語教室HOMIGOにおいてフリー マーケットの企画を話しあい 、公団自治区主催のふれあい祭 りの機会を利用して実施した。 取組1のHOMIGOパンフレットを 当日配布した。
---	-----------------------	---	----	-------------------------------	---

(8) 特徴的な活動風景



勉強会(9月23日)



フリーマーケット(11月18日)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

勉強会では「ほみにおいでん」、国際フェスタ、学校PTAのバザー(不用品・料理)、地域の朝市などの主催者からとりくみの状況を聞き、イベント企画への協力体制がつけられた。地域において交流機会を日常的に提供したいと考え、その手段として朝市やフリーマーケットを企画した。団地内での販売は制約が多い中、自治会主催のふれあい祭りと連携することによってその第一歩を踏み出すことができた。フリーマーケットは公団事務所の許可を得て、今後も続けていける体制ができた。

日本語教室の活動として具体的な企画・準備を行い当日につなげることで、活動が学習者にとって主体的なものとなった。

(10) 改善点について

特にありません。交流事業は地域と連携しやすいので、今後も続けていきたい。

○取組5:地域自治にかかわる取組

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域自治をテーマとした活動をもとに住民の交流を促進させ、日本語教室への参加意識を育む

(2) 取組内容

先進的他地域(春日井市高蔵寺ニュータウン)を訪問し現地で勉強会を行う。地域自治の問題解決に向け、自治区、ブラジル人協会などが協働して、地域住民、外国人の勉強会への参加を促し、今後の日本語教室への参加につなげる。

(3) 対象者

団地内に住む日本人、外国人及び実行委員

(4) 参加者の募集方法

勉強会は、メール及び電話。イベントはふれあい祭りの機会を利用。

(5) 参加者の総数 多数 (勉強会は15人)

(出身・国籍別内訳：主にブラジルと日本が同じ。勉強会は日本のみ)

(6) 開催時間数(回数) 7時間(全3回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	9月16日 13:30 -15:00	1.5	9	集住地区における居場所について(勉強会の開催)	建築学を専攻する筧氏から学校建替えを想定した地域コミュニティの場を入れた開放的な建築計画の発表と外国人のたまり場的なトラックヤード設置から退去までの地域の状況を聞いた。
2	11月18日 9:30 -12:30	3	多数	イベント「保見のいいところ探し隊」の実施	日本語教室での活動をイベントに広げ、自治会主催のふれあい祭りにおいて、保見のいいところを参加者に書いてもらい、パネルを作る活動を行った。
3	12月8日 12:30 -15:00	2.5	6	春日井高蔵寺ニュータウン視察(勉強会の開催)	かねてから訪問したい地域だった高蔵寺ニュータウンの視察を行い、次郎丸慶子氏より取り組みの経緯を聞いた。

(8) 特徴的な活動風景



勉強会「集住地域における居場所」
(9月16日)



勉強会「高蔵寺ニュータウン視察」
(12月8日)



イベント「保見のいいところ見つけ隊」
会場の人々が書いたものを集めたパネル
(11月18日)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

当初の計画を変更し、勉強会に保見団地を対象とした研究報告を入れ、他地域訪問を1箇所とした。

9月16日に開催した研究報告では、サードプレイスの重要性と日本語教室の役割について考えることができた。また、他地域での地域実践の報告もあり、参考になった。

高蔵寺ニュータウン訪問では個別の課題から発展した福祉のとりくみを聞き、地域で人を巻き込み実践する上での学びとなった。せっかくの機会に参加者が少なく残念であった。

日本語教室ではまちづくりの視点から、どんなところに住みたいか、保見のどこが好きかなどをテーマに話しあい、ふれあい祭りのイベントにつなげた。イベント「保見のいいところ見つけ隊」は外国人が半数を占める保見団地を今後どうしていきたいかを考えるきっかけとなった。

(10) 改善点について

実施体制を地域と連携したものにするためには時間がかかりそうであるが、今後も保見団地をどのような団地にしていけばいいのかを地域住民と考える機会となる場を提供していきたい。

○取組6:事業評価と成果報告会の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

次年度への事業の継続的な推進体制の必要性を確認する。

(2) 取組内容

地域住民と成果を共有するため成果評価会と事業成果報告会を開催する。

(3) 対象者

団地内に住む日本人、外国人及び実行委員

(4) 参加者の募集方法

勉強会は、メール及び電話。シンポジウムは、ちらし、メール、電話で。

(5) 参加者の総数 65人

(出身・国籍別内訳 ブラジル 3人、中国 1人、ベトナム 1人)

(6) 開催時間数(回数) 4.5時間(全2回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加数	取組のテーマ	概要
1	1月13日 13:30-15:00	1.5	10	取組1～5の評価(勉強会の開催)	成果報告会(シンポジウム)の準備として評価勉強会を開催し、講師として成果報告会のコメンテーターである名古屋大学の衣川氏、豊田市役所猿投支所の澤田氏を迎えて各コーディネーターと共に議論した。
2	2月10日 13:30-16:30	3	55	シンポジウムの開催	地域の活動拠点である保見公民館においてシンポジウムを開催した。第1部では取組2～5の報告を、第2部では4自治区の区長と保見ヶ丘ブラジル人協会代表を交えた座談会を行った。

シンポジウムちらし

「NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター」は
日系ブラジル人を主な対象とする外国人が多く住む保見町
地で、「日本語コミュニケーション支援」を続けてきました。
今年度は、地域の課題である「地域の自治や防災、高齢化、
地域交流と二立止まざる取り組み」をテーマとしてきました。そ
の成果を広く周知、共有することによって外国人住民と共
につく地域づくりについて考えたいと思います。

「地域づくりにつながる日本語学習支援」
◆主催：NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター

■日時 ■プログラム ■会場

オープニング

【報告会】

①「防災をテーマとした取り組み」
NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター 土井 祥彦

②「高齢化をテーマとした取り組み」
NPO法人 トルシーダ 伊藤 孝正

③「多文化交流をテーマとした取り組み」
NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター 龍崎 謙二

④「まちづくりをテーマとした取り組み」
NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター 龍崎 和子

◆コメンタリー
北川 隆志（名古屋大学留学生センター）
澤田 昌紀（豊田市建設支所）

【座談会】
「保見町地のこれから」
早野 裕之（保見ヶ丘内語自治会）
山崎 和弘（公益財団法人自治会）
小池 昭雄（東京経済自治会）
佐藤 昭（保見町自治会）
松田 敏子（保見ヶ丘国際交流センター）

◆司会
田嶋 武英（NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター）

【日時】2013年2月10日（日） 13:30～16:30
【場所】保見交流館 1F 多目的ホール
【参加方法】入場無料 どなたでも参加いただけます！
【問合せ先】NPO法人 保見ヶ丘国際交流センター
龍崎 和子
電話：090-2337-5228
メール：infohmi@gmail.com



地域連携による
日本語学習推進事業

保見 づくり

「やさしくたのしくみんなで日本語いきいきわくわく・HOM」のまち

（８）特徴的な活動風景（２月１０日のシンポジウム）



学習者の一言スピーチ動画を流す



会場に日本語教室の成果物を展示



地域住民による座談会

(9) 取組の目標の達成状況・成果

評価勉強会にはコーディネーター全員の参加がかなわなかったが、これまでの活動を振り返り、現状をどう捉えるか、何が得られたかを検討した。具体的には、「6. 事業に対する評価について」の項に記載する。

シンポジウムには保見団地の住民だけではなく、他地域の自治会関係者、自治体職員、日本語教師など各方面からの参加があり、関心の高さがうかがえた。アンケートからは、第2部の座談会で自治区長らの切実な本音トークに共感するものが多く、また、ブラジル人協会代表のような存在への期待が伺えた。アンケート項目は、開催情報入手先、居住地、意見・感想の自由記述欄の3つである。以下にアンケート結果を記す(回収数: 11枚)

1. 開催情報入手元 個別案内: 3、団地掲示板: 3、メーリングリスト: 1
その他: 4

2. 居住地 保見団地: 4、豊田市内: 3、愛知県内: 4(1名は猿投地区に勤務)、愛知県外: 0

3. 意見・感想(記入者: 8名) 文言は記載のまま再現(改行は反映せず)

- ・ 区長さんの方々の話は良い意味で切実でした。行政は区長さんたちの声をしっかり聞いて、保見で求められている地域づくりをすすめていく必要があると思います。
- ・ 区長のみなさんから保見地区が良い所ということばを聞き安心しました。地元を愛する気持が原点だと思います。また、松田さんのような方の声はもっと広く届けばよいと思います。
- ・ 住んでいるみなさんからの保見団地は素晴らしいという情報発信がより一層必要なのではと思います。自治区(公団)の加入率が低いという事は日本人、外国人問わず問題だとすればURの協力が必要不可欠なのだろう。お祭りなどの機会に、自治区の参加促進キャンペーンが検討できないか。→自治区に入るメリットを理解してもらうには? →自治区という住民自治組織がないみなさんに知ってもらうには? →上手く展開している自治区があれば把握したい。
- ・ 結局のところ、最後の区長さん達の話につきますと思います。自治区などに入っていない人との関係をどう持つべきか。そのために、本来日本語教室があったと思いますが、形状は形がい化していると感じます。地域交流を日本語教室に頼ることに無理が来ているのではないかと感じました。
- ・ 人としてどう生きていくかが大切なのですね。出身国が違うのは問題ではないですね。いいシンポジウムでした。地域の学校など、もっと連携できるといいのに、とは思いました。
- ・ 本当の保見を知るいいきっかけとなりました。
- ・ 多くのブラジル人をはじめとした外国人居住者が大変多く、生活習慣の違い、日本人との交流をはかれない人も多く、いろいろな問題が生じている。又西保見小には半数以上が外国人で占め、日本語を話せるような努力をはかれるが、親達が生活するのがせいっぱいの人がそういう問題からはなれた所にいるので、地域全体で外国人問題を真剣に考えないと将来大変な問題生じるだろう(治安も含めて)
- ・ (1) 主題に興味があり参加した。(2) 主催団体の保見団地民への認知度(活動内容等)が低いと思う。理解を広げる為のPR, 広報が必要と考える。(3) 有力紙取材による”保見団地の今”(仮題)の記事が活性化につながるのでは・・

事業評価の方法や成果報告会としてのシンポジウムの企画は第2回の運営委員会・第5回実行委員会において検討を始めてきた。取組1の実行委員会の参加状況が思わしくない中、個別に進捗状況を伝えるなどして補った。取組6の目標であった「次年度への事業の継続的な推進体制の必要性を確認する」については、取組2～6で若干の接点があったので、今後につながる可能性を期待することができる。

取組6として、指導書を作成した。事業実施の経験が多くの関係者の活動に資することを期待したい。

(10) 改善点について

自治会役員との連携に課題が残るが、時間をかけてとりくみたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

日本人住民・外国人住民ともに参加できるイベント的な日本語学習機会を提供することによって、継続的な日本語学習活動と地域活動への参加を促すことを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

取組2～5では、高齢化、防災、多文化交流、まちづくり、の4つをテーマに、実行委員を対象とした勉強会と地域住民を対象としたイベント、日本語教室での活動(委託事業には含まれず連携事業として実施)を連携させて行った。その結果、日本語学習機会を提供するイベントを実施し、地域活動への参加を促すことができた。しかしながら、地域住民の日本語教室への参加は現在のところ認められない。

(3) 地域における事業の効果、成果

豊田市保見団地は住民の半数が日系人などの外国人である。日本人住民数の減少と高齢化という問題を抱えた団地において、外国人住民は地域活性を担う要である。取組2「高齢化をテーマとした取組」では、自治会長の一人からイベント場所の提供や健康体操をしているグループの紹介があり、取組3の「防災をテーマとした取組」では、勉強会に自治会長らの参加があり、また、取組4「多文化交流」の勉強会には学校PTA関係者、地域イベントの主催者、自治会役員らの参加を得、さらに、取組6のシンポジウムでは自治会役員とブラジル人協会代表による座談会を実施し、NPOの活動を共有する機会となった。

団地内で開催している日本語教室では、各取組テーマを日本語教室活動に生かし、自治会主催のふれあい祭りやと連携してイベントを行った。この一連の活動は学習者にとって実践的な日本語学習機会となった。

上記のような取り組みが日本語教育の体制整備につながったと考える。また、この成果を指導書として広く発信することで他地域の参考になるものとする。

(4) 改善点、今後の課題について

現状

団地全体で進めるために、地域の自治会の役員や団地内の他団体をメンバーとして実行委員会を設置したが、出席者が少なかった。団地の日本人住民は外国人住民との共生を行政から押し付けられたものと感じており、外国人住民は日本語ができなくても生活できる環境の中、その生活基盤である就業が不安定である。さまざまな取組を行ったが、日本語教室の参加者は増えていない。地域との連携体制も不十分である。

今後の課題

次年度この事業の継続は断念することになったが、8000人規模の団地での活動を見直すには、継続的な話し合いの場に自治会からの積極的な参加が不可欠である。

日本語教室の参加者を増やすためには日常的な働きかけとさらなる仕掛けが必要

である。地域連携を進めるためには日常的な対話を重ねる必要があり、それを日本語教育への体制整備につなげるには協働イベントなどを実施する必要がある。

今後の活動予定

日本語教室の活動方法の一つとしての地域参加型活動方法をより充実させ、自治会主催のイベントに協力していく。また、当 NPO 主催のイベントなども自治会と連携して行う。次年度は東京 R 不動産とコラボしたイベントができないかと考えている。

(5) その他参考資料

- ・取組 1：事業計画（第 1 回運営委員会・実行委員会配付資料）
- ・取組 1：やさしい日本語パスポート
- ・取組 1：日本語教室 HOMIGO のパンフレット
- ・取組 2：高齢化勉強会の資料
- ・取組 2：高齢化イベントのチラシ（日本語、ポルトガル語）
- ・取組 3：防災勉強会の案内文
- ・取組 3：防災勉強会の資料
- ・取組 4：多文化交流勉強会の資料 1
- ・取組 4：多文化交流勉強会の資料 2
- ・取組 5：まちづくり勉強会の資料
- ・取組 6：事業評価の勉強会資料
- ・取組 6：シンポジウム開催要項（案）（第 2 回運営委員会・第 5 回実行委員会配付資料）
- ・取組 6：シンポジウムのチラシ
- ・取組 6：シンポジウムのプログラム
- ・取組 6：シンポジウムのアンケート
- ・取組 6：指導書「地域とつながる日本語活動」

以上